

令和 7 年度
事 業 報 告 書
(令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日)

1. 概況

令和 2 年 4 月 1 日より新たな組織として「公益社団法人 北海道農産基金協会」が発足し 6 年が経過しました。

本年度につきましては、主たる各事業については事業計画に従い取り進めることができました。

また、臨時総会にて定款を変更し、次年度より、新たに小麦事業の実施を承認いただきました。

○気象経過・生育状況等

4 月からの降雨の影響により、植え付けや、は種作業は遅れました。

5 月は気温が平年よりかなり高く、降水量は少なく、日照時間は多く推移しました。生育は概ね平年並でしたが、一部品目はやや遅れて推移しました。

6 月以降も気温は平年よりかなり高く、降水量はやや少なく、日照時間は多く、各品目の生育は概ね平年並からやや早く推移しました。

7 月に入っても同様の気候が続き、各品目の生育は平年より進んで推移しました。

8 月に入り、気温は平年よりかなり高く、降水量と日照時間は多く、生育は全般に平年より早く進みました。

9 月に入り、気温は平年よりかなり高く、降水量は多く、日照時間はかなり多く、各作物の生育は全般に平年より早く、農作業も平年より早く進みました。

品質については、品目により差はありますが、概ね並から良好な結果になりました。

○各品目の状況

(豆類関係)

豆類については、令和 7 年産の作付面積が大豆は 45,100ha で前年を 1,700ha 下回り、小豆は 21,300ha と前年から 500ha 増加しました。

菜豆類については、金時が 3,700ha (前年比△50ha)、大手亡が 1,380ha (前年比+80ha)となりました。(大豆の作付面積はホクレン調べ)

小豆は一部地域で葉落ちが不良となり収穫作業が停滞しました。収量は平年並みからやや少なく、品質は平年並みとなりましたが、地域によっては小粒傾向となりました。

菜豆は 8 月上旬から中旬の高温により登熟が早まり、成熟期も早まりました。草丈、葉数、着莢数は平年並みで推移したものの、収量は平年よりやや少なく、品質は小粒傾向で未熟粒や色流れ粒の発生が見られたことから、やや不良となりました。

主な事業については、赤系金時の安定的な供給を通じて価格の安定に資

するため、「赤系金時安定供給緊急対策事業」を実施しました。

（馬鈴しょ関係）

馬鈴しょについては、作付面積は 48,200ha と前年産を下回りました。用途別では生食・加工用約 60%、でん粉用約 30%、種子用約 10%となる見込みです。

反収は前年を下回る 3,510kg/10a、収穫量は 1,690,000 t（前年比 90%）となりました。春先の降雨の影響により生育はやや遅れてスタートしました。6 月上旬までは好天もあり回復傾向となっておりましたが、6 月中旬以降の高温、少雨により塊茎肥大期に干ばつがひどかったことから小玉傾向となり、収量が激減しライマン価も低い状況となりました。

馬鈴しょでん粉については原料処理量 627,500 t、生産量は 133,000 t を見込んでいます。

主な事業については、公募によるでん粉原料用馬鈴しょの品種改良や病虫害対策、栽培技術の開発に対する「研究助成事業」や、馬鈴しょ及び馬鈴しょでん粉の安定的生産に寄与するため、講習会（現地開催・WEB）により各種情報を発信するなどの「普及啓発事業」を実施しました。

令和 7 年度においては、道産でん粉原料用馬鈴しょの生産目標面積を遵守し、道産でん粉原料馬鈴しょの需給改善を図ることを目的に「安定供給緊急対策事業」にて令和 7 年度補正予算畑作物産地生産体制確立・強化緊急対策事業のうち、でん粉原料用馬鈴しょが対象となるメニューについて、ホクレンと共同でパンフレットを作成し、JA 並びに生産者に配布いたしました。

また、北海道産でん粉原料用馬鈴しょの生産意欲の高揚と生産技術及び品質・収量の向上、生産振興を図ることを目的とした、「でん粉原料用馬鈴しょ栽培共励会」にも参加しました。

（青果物関係）

野菜関係については、春先に曇天・降雨が続きましたが、6 月以降、高温・少雨が続く、北海道における真夏日の日数が統計開始最多となるなど、本年も生育に厳しい天候推移となりました。9 月は、残暑厳しい一方で降雨も多く、各作物の生育にも大きな影響を及ぼしました。多くの品目で生育が進み、気象の影響から日焼け果や石灰欠乏の生理障害などにより品質・収量への影響が散見され、また、たまねぎは小玉傾向となり収量への影響が見られました。野菜・果実全般的に出荷量が少なかったため、市況は堅調に推移した年産となりました。

府県産においても高温が続く、また、台風等による局地的な降雨などから出荷量は減少し、市況高で推移する年産となりました。

また、加工・業務用野菜の生産基盤の強化に向け、道内における「国産野菜周年安定供給強化推進事業」の事務支援を行っております。

果実関係については、近年、国産ワイン需要の高まりがあり、北海道でも新たな担い手による醸造用ぶどうの栽培が本格化しており、「果樹経営支援対策事業」の助成額は増加しております。

2. 事業に関する事項

(1) 豆類関係

① 豆類価格安定対策事業

ア 令和6年産豆類価格安定対策事業

令和6年産対象豆類に係る価格差補てん事業については、対象豆類の平均販売価格がいずれも補てん基準価格を上回ったため、発動はありませんでした。

(参考) 令和6年産対象豆類の販売状況

ホクレン農業協同組合連合会

品名	等級	項目	調整販売	
			数量・金額	摘要
大正金時	2等	販売計画 (俵)	83,643	
		販売実績 (俵)	83,643	
		販売金額(千円)	3,433,455	
		販売平均単価(円)	41,049	
		平均販売価格(円)	39,172円 <精算：令和7年9月30> ★ 補てん基準価格 27,560円	
北海金時	2等	販売計画 (俵)	478	
		販売実績 (俵)	478	
		販売金額(千円)	19,598	
		販売平均単価(円)	41,000	
		平均販売価格(円)	38,689円 <精算：令和7年9月30> ★ 補てん基準価格 27,560円	
大手亡	2等	販売計画 (俵)	34,286	
		販売実績 (俵)	34,286	
		販売金額(千円)	1,292,877	
		販売平均単価(円)	37,709	
		平均販売価格(円)	35,760円 <精算：令和7年9月30> ★ 補てん基準価格 22,640円	

(注) 合計値と内訳は、ラウンドの関係で一致しない。

イ 令和7年産対象豆類の基準価格

令和7年産対象豆類の価格差補てん事業の基準価格については、令和7年10月8日に開催された第2回業務評価委員会の意見を聴き、10月20日に開催された第2回理事会の議決を経て、11月5日に北海道知事の承認を受けたので、同日付けで次のとおり公告しました。

[基準価格]

品目 項目	規格 等級	単位 (kg)	場所	基準価格 (円)	(参考) 基本価格 (円)
				補てん基準価格	
金 時	2 等	60	産地倉庫	29,590	32,880
大 手 亡	同上	同上	同 上	23,890	26,540

ウ 令和 7 年産対象豆類の対象数量

令和 7 年産対象豆類の対象数量については、令和 7 年 10 月 8 日に開催された第 2 回業務評価委員会の意見を聴き、10 月 20 日に開催された第 2 回理事会の議決を経て、当該年産対象豆類共同計算委託販売受託数量と決めました。

エ 令和 7 年度赤系金時安定供給緊急対策事業

赤系金時の安定生産を通じて価格の安定を図るため、26 集荷団体を経由して、836 戸の生産者が約 2,982 ha に播種した優良種子の代金の一部として助成金 59,448 千円を交付しました。

② 小豆類生産安定対策事業

道産小豆類の需給状況の計画的な改善に向けて、関係者が一体となって生産目標面積の遵守に向けた取り組みを推進するため、令和 5 年度に小豆類生産安定運動推進事業を実施し、作付面積の増加など、一定の効果が得られたことから、6 年度に引き続き 7 年度も当該事業を実施しないことといたしました。

③ 豆類生産流通安定推進事業

ア この事業は、毎年恒常的に実施している業務を網羅した事業として設定しているもので、豆類需給安定会議を開催するための経費、豆類の生産目標に関する業務委託費及び豆類の生産・流通・消費動向の調査に関する業務委託費が含まれています。

イ 豆類需給安定会議については、一般社団法人全国豆類振興会及び北海道豆類振興会との共催により、昨年 9 月 4 日に十勝管内帯広市において、生産、流通、実需、試験研究、行政等の関係者約 70 人の参加を得て、豆類主要生産地の農協担当者をお招きし、本年産豆類の生育状況について情報提供いただき、関係機関から情勢報告を含めて意見交換を行いました。

ウ 豆類の生産目標面積に関する業務については、「豆類の生産目標面積設定に係る情報の収集及び当該面積の周知に関する業務」を北海道農業協同組合中央会に委託（委託費 500 千円）し、令和 7 年産雑豆に係る作付意向の把握、地域別生産目標面積の策定、当該面積の生産者への啓発に要する経費を委託費として支出しました。

エ 「豆類生産・流通・消費動向の調査に関する業務」については、ホクレン農業協同組合連合会に委託（委託費 2,000 千円）し、道内における 7 年産の雑豆の生産（作付及び収穫）動向並びに全国主要消費地域における雑豆の消費動向に関する調査に要する費用を委託費として支出しました。

オ 生産目標面積の設定・周知

ウの委託調査を通じて得られた情報等を踏まえ、需要に即した計画的な雑豆の供給に資するため、令和 7 年 12 月 19 日付けで令和 8 年産の雑豆の生産目標面積を設定しました。

④ 豆類消費啓発助成等事業

ア 豆類消費啓発助成等事業及び⑤の豆類調査研究助成事業については、広く課題を募集し、公募事業等審査委員会において選定された課題について助成金を交付する方法により実施しています。

令和 7 年度の事業については、令和 6 年 12 月 2 日に当協会ホームページに公募要領を掲載し、令和 7 年 1 月 31 日に開催した審査委員会において実施課題が選定されました。

イ 豆類消費啓発助成等事業については、審査委員会において次の 5 課題が選定され、助成金（計 8,995 千円）を交付しました。

採 択 課 題 名	助成限度額 (千円)
食育＊雑豆教室＆育てソダテ空まで届け！雑豆校内菜園	1,991
SNS を駆使した豆の啓蒙普及・ユーチューブ編	1,254
北海道の和菓子を食べようスタンプラリー2025	1,950
HBC ラジオ桜井宏のあんこ通信	2,000
FM ラジオとのタイアップによる豆活の推進	1,800

ウ 10 月 13 日の「豆の日」の協賛行事については、令和 6 年 12 月 2 日から当協会ホームページで「豆の日」協賛事業の実施内容を募集し、審査委員会において株式会社フラクタルが選定されました。当該事業者に対し、令和 7 年 4 月 1 日付けで交付決定（助成金 1,650 千円）し、10 月上・中旬に「イオンお豆弁当フェア」として実施しました。

⑤ 豆類調査研究助成事業

本事業については、審査委員会において次の 2 課題が新たに選定され、地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部十勝農業試験場に助成金（計 7,000 千円）を交付しました。

採 択 課 題 名	助成限度額 (千円)
障害抵抗性に優れる小豆品種の開発促進	3,500
耐病性に優れる菜豆品種の開発促進	3,500

また、前年度までに採択された次の4課題については、複数年度事業として選定された課題であり、地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部中央農業試験場及び十勝農業試験場に助成金(計7,000千円)を交付しました。

継 続 課 題 名	助成限度額 (千円)
作物モデルを用いた小豆及び菜豆の作期の推定	1,500
DNA マーカーを利用した土壌病害抵抗性に優れる小豆品種の開発促進	1,000
小豆の高温抵抗性評価法の検討	1,000
豆類主要病害虫に対する農薬散布用ドローンを用いた防除効果と散布特性の評価	3,500

⑥ 豆類流通円滑化緊急対策事業

豆類の円滑な流通に重大な支障を生じる恐れのある事態が発生した場合に緊急的な対応を行うこととしていますが、本年度の発動はありませんでした。

(2)馬鈴しょ関係

① 研究助成事業

馬鈴しょ及び馬鈴しょでん粉の生産や供給の安定確保に資するため、品種改良、病害虫対策、栽培技術開発、及び需給に係る調査研究等の課題について公募を行い、採択された課題に対して助成事業を行い、14課題に対し24,415千円の助成金を交付しました。

令和7年度 生産流通振興事業 一覧表

区分	事業名	部署	事業費(千円)
品種改良	ゲノム情報の活用による多収馬鈴しょ交配母本の選択と維持	中央農試	2,000
	馬鈴しょ疫病抵抗性系統の効率的な選抜と開発強化	北見農試	2,500
	でん粉原料用馬鈴しょにおける高品質でん粉系統の効率的な選抜と開発強化	〃	2,000

	センチュウ類および Y ウイルス抵抗性馬鈴しょ品種の開発強化と特性検定試験	〃	3,000
	早期収穫適性が優れるでん粉原料用馬鈴しょ多収品種の開発促進	〃	3,000
	でん粉原料用馬鈴しょ向け F1 育種に向けた親系統の作出	帯広畜産大学	2,620
	でん粉特性の優れたジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性でん粉原料用品種の開発	北農研	1,461
	ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性馬鈴しょ品種開発促進のための有望系統の抵抗性評価	北農研	840
病害虫	ジャガイモシロシストセンチュウ類の土壌診断手法の改良	〃	1,320
	気象情報に基づいたアブラムシ飛来数の即時予測手法の開発と簡便な PVY 検出手法の確立	〃	900
	馬鈴しょ疫病の効率的な防除を目的とした疫病菌の動態調査と防除技術開発に関する試験研究	北海道大学	1,205
栽培技術	ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性馬鈴しょ品種「ユーロビバ」の農業特性解明	北見農試	2,000
	ニオイセンサを用いた馬鈴しょ塊茎腐敗臭の測定技術の確立	北農研	569
	大規模畑作経営におけるでん粉原料用馬鈴しょの作付け安定化条件(大規模経営のでん原馬鈴しょの位置付け)	帯広畜産大学	1,000
	合 計		24,415

② 普及啓発事業

道内馬鈴しょ及び馬鈴しょでん粉の安定生産及び生産性向上に寄与するため、馬鈴しょ及びでん粉講習会の開催等によって、馬鈴しょの栽培技術・品種開発・流通動向等に係る各種情報の普及啓発を図りました。

ア. 第 32 回馬鈴しょ及びでん粉講習会

(ア) ホクレンと共同で幕別町、網走市において講習会を開催し、両会場合わせ約 400 名の出席がありました。

(イ) 講演について

○メーカー講演 北海道馬鈴薯澱粉と崎陽軒

・(株)崎陽軒 君塚常務取締役

○「コナヒメ」の安定生産に向けて

・ホクレン農総研 畑作物水稻開発課 田中課長

○生産者優良事例

《幕別会場》

・中札内村における澱粉原料用馬鈴しょ生産の優良事例

中札内村農業協同組合農産部農産課 馬場課長

《網走会場》

- ・清里町における馬鈴しょ生産と試験事例の紹介

清里町農業協同組合営農部農畜産課 堀田主査

- ・清里町における澱粉原料用馬鈴しょ生産の優良事例

網走農業改良普及センター清里支所 萬歳普及指導員

○でん粉特性の優れたジャガイモシロシストセンチウ抵抗性でん粉原料用品種の育成

- ・北海道農業研究センター芽室研究拠点寒地畑作研究領域

野田学術博士

○講演内容を撮影し協会ホームページ経由で視聴できるようにしています。(3/18～)

(ウ) パネルディスカッション

○テーマを高温対策、疎植栽培、でん原馬鈴しょ生産に関する現在の状況と課題とし、農水省、JA 全農、他講演者、生産者が登壇し議論がされました。

③ 需給調整事業

令和7年産においては、でん粉原料用馬鈴しょ面積は減少し、高温、少雨・干ばつの影響を受け小玉傾向、ライマン価も低くなり、でん粉生産量も減少し、次期への繰越数量は適正数量を下回ると見込まれます。販売においては各用途とも好調な需要を維持しているものの、供給を制限して販売を継続する必要があります。

以上の結果、令和7年産でん粉の「調整保管事業」は発動しませんでした。

また、令和7年度は道産でん粉原料用馬鈴しょの生産目標面積を遵守し、道産でん粉原料馬鈴しょの需給改善を図ることを目的に、「馬鈴しょ安定供給緊急対策事業」を活用し、令和7年度補正予算畑作物産地生産体制確立・強化緊急対策事業のうち、でん粉原料用馬鈴しょが対象となるメニューをパンフレット化し、JA 並びに生産者に配布いたしました。

北海道産でん粉原料用馬鈴しょの生産意欲の高揚と生産技術および品質・収量の向上、生産振興を図ることを目的とした、「でん粉原料用馬鈴しょ栽培共励会」に参加し、委員会・優良事例表彰式等に要する経費1,470千円の助成を行いました。

(3) 青果物関係

① 野菜関係事業

ア 野菜価格安定対策事業（特定野菜等供給産地育成価格差補給事業）
(ア) 交付対象数量及び交付予約数量

交付対象数量については、特定野菜4,210t・指定野菜182t、合計では4,392t（前年比92%）となり、前年を下回る数量となりました。

※前年比：夏はくさい（97%）、スイートコーン（10%）、ブロッコリ

ー（112%）、かぼちゃ（97%）、ごぼう（78%）、やまのいも「長いも」（84%）

交付予約数量については、生産出荷団体からの申込数量に対して80%（前年85%）の出荷数量となりました。

単位：t. %

	7年度 A	6年度 B	5年度 C	対比	
				A/B	A/C
特定野菜	(5,290) 4,210	(5,465) 4,596	(5,725) 4,054	(97) 92	(92) 104
指定野菜	(190) 182	(190) 188	(190) 105	(100) 97	(100) 173
計	(5,480) 4,392	(5,655) 4,784	(5,915) 4,159	(97) 92	(93) 106

※（ ）内は交付予約数量

（イ）価格差補給金の造成額

事業資金造成額については、資金造成単価の上昇などから前年を上回る1億66百万円（前年比101%）となりました。

単位：千円. %

	7年度 A	6年度 B	5年度 C	対比	
				A/B	A/C
特定野菜 （機構）	162,012 (70,500)	160,924 (70,806)	172,136 (74,543)	101 (100)	94 (95)
指定野菜 （機構）	4,184 (2,092)	4,099 (2,050)	4,099 (2,050)	102 (102)	102 (102)
計 （機構）	166,196 (72,592)	165,023 (72,856)	176,235 (76,593)	101 (100)	94 (95)

※（ ）内は機構からの助成額で資金総額の内数

（ウ）価格差補給資金の交付状況

野菜関係については、6月以降の高温・少雨により、生育に厳しい天候推移となりました。9月も残暑厳しい一方で降雨も多く、多くの品目で生育が進み、日焼け果や石灰欠乏の生理障害などにより品質・収量への影響が散見され、露地野菜を中心に出荷量は前年を下回りました。

市場では、猛暑による作柄不良で全般的に平年を上回る価格で推移しています。

このような状況の中、ごぼうの10～12月で2ブロック（関東・四国）の市場価格が低落したことから377千円（前年比△1,714千円）の生産者補給金を交付しています。

（エ）価格差補給資金の資金保有額

交付予約数量の減少に伴い、補給資金の期末保有額は前年を下回る1億65百万円（前年比△11百万円）となりました。

内訳としては、農畜産業振興機構が72百万円・農産基金協会（北海道、登録出荷団体）が93百万円となっています。

単位：千円、%

	7年度 A	6年度 B	5年度 C	対比	
				A/B	A/C
特定野菜 (機構)	160,775 (69,964)	162,012 (70,500)	160,924 (70,806)	99 (99)	100 (99)
指定野菜 (機構)	4,286 (2,143)	4,184 (2,092)	4,099 (2,050)	102 (102)	105 (105)
計 (機構)	165,061 (72,107)	166,196 (72,592)	165,023 (72,856)	99 (99)	100 (99)

※ () は機構からの助成額で資金総額の内数

イ 野菜価格安定対策事業（野菜生産出荷安定資金造成円滑化事業）

指定野菜価格安定対策事業資金の都道府県負担分について、北海道から補助金として受領し、農畜産業振興機構に納付する事業となります。

指定野菜事業の対象となる交付予約数量は、562,502 t（前年 591,397 t）で、補助金納付額は 9,665 千円（前年 10,937 千円）、債務負担行為額は 774 百万円（前年 778 百万円）となっています。

ウ 青果物生産出荷安定対策事業

北海道で生産される野菜の需要と供給を適正に調整し、安定的な出荷を促進するため、ホクレンを事業実施者として「需要啓発事業」、「需給調整事業」、「馬鈴しょ・玉ねぎの安定出荷事業」を実施するための交付金を交付する事業となります。

本年度の交付額は 12 億 8 百万円（前年比 108%）となっています。

事業区分	月	期首保有額	資金受入額	交付額	資金保有額
需要啓発等	4月～ 翌3月	126,189,307	114,063,876	188,130,308	52,122,875
需給調整等		516,789,512	46,756,971	550,000	586,032,478
振替			23,035,995		
安定出荷		837,919,993	803,919,585	1,020,003,900	598,799,683
振替				23,035,995	
計		1,480,898,812	987,776,427	1,231,720,203	1,236,955,036
合 計（振替除く）			964,740,432	1,208,684,208	1,236,955,036

② 果実関係

ア 果樹経営支援対策事業（整備事業）

中央果実協会（事業主体者）から交付決定承認を得ている当年度事業完了分（6年度、7年度）について、33ha の園地整備を行い、88 百万円（前年比 154%）の補助を行っています。

対象産地は、14 産地（七飯町、壮瞥町、ニセコ町、仁木町、余市町、岩見沢市、三笠市、浦臼町、深川市、南渡島、十勝広域、上ノ国、蘭越町）で、優良品目・品種への改植、新植及び土壌土層改良等の小規模園地整備を実施しています。

単位：千円、%

	7年度 A	6年度 B	5年度 C	対比	
				A/B	A/C
事業費	(123,969) 104,252	(80,082) 108,219	(59,795) 60,220	(155) 96	(207) 173
補助金	(107,821) 91,454	(77,086) 88,407	(57,731) 57,477	(140) 103	(187) 159

※（ ）内は事業計画

イ 果樹未収益期間支援事業

整備事業と同じく幼木苗木の植栽を実施した28ha(前年比101%)の園地について、未収益期間の経費

助成として、58百万円(前年比98%)の補助を行っています。

近年、増加傾向である“醸造用ぶどう”について、助成額は前年比で104%増加しています。

単位：千円、%

	7年度 A	6年度 B	5年度 C	対比	
				A/B	A/C
事業費	(72,687) 61,906	(56,665) 61,319	(42,669) 42,146	(128) 101	(170) 147
補助金	(68,671) 58,488	(54,796) 59,640	(41,211) 40,575	(125) 98	(167) 144

※（ ）内は事業計画

ウ 果樹関係事業総額(整備事業+未収益期間)

単位：千円、%

	7年度 A	6年度 B	5年度 C	対比	
				A/B	A/C
事業費	(196,656) 166,158	(136,747) 169,538	(102,464) 102,366	(144) 98	(192) 162
補助金	(176,492) 149,941	(131,882) 148,047	(98,942) 98,052	(134) 101	(178) 153

※（ ）内は事業計画

③ その他

ア 国産野菜周年安定供給強化推進事業

令和元年度以降に採択された10件について、当該事業の関係書類(成果報告書、実施状況報告書、実施計画の軽微変更等)の提出を行っています。

また、令和7年度事業については、道・JAグループ等に応募の周知を行った結果、1団体から応募がありましたが、採択されませんでした。

イ 全国果樹技術・経営コンクール

北海道果樹・技術コンクール審査委員会(事務局：協会)で審査を行った「余市町 弘津雄一様」を中央果実協会に推薦した結果、「農林水産大臣賞」受賞しました。

〔参考〕

1. 国産野菜周年安定供給強化推進の概要（北海道分）

事業区分	採択年度	事業実施者	事業対象		補助金 (百万円) (@15万円/10a)	品 目
			面 積 (ha)	参 加 者 (人)		
加工・業務用野菜生産基盤強化事業	元	4	180	161	345	かぼちゃ、スイートコーン、さやいんげん、えだまめ
端境期等対策産地育成強化推進事業	3	2	100	39	149	だいこん、生食用かぼちゃ
大規模契約栽培産地育成強化推進事業	4	0	0	0	0	0 (採択なし)
	5	2	100	34	150	スイートコーン、かぼちゃ
	6	2	72	26	108	かぼちゃ
国産野菜周年安定供給強化推進事業	7	0	0	0	0	0 (採択なし)
合計		10	452	260	752	

(注 1) H26 年度から H30 年度及び R2 年度は事業終了。

2. 全国果樹技術・経営コンクールの道内農業者の受賞状況

(平成 11 年～令和 7 年)

受賞内容	受賞回数	市町村
農林水産大臣賞	4	芦別市、浦臼町、壮瞥町、余市町
農林水産省生産局長賞	2	増毛町、壮瞥町
全国農業協同組合中央会会長賞	4	余市町 (2)、深川市、増毛町
全農経営管理委員会会長賞	1	仁木町
全国果樹研究連合会会長賞	4	深川市、余市町、仁木町、厚真町
公益財団法人中央果実協会理事長賞	4	札幌市、長沼町、砂川市、七飯町
計	19	

3. 組織に関する事項

(1) 会員

区 分	前期末	加入	合併	令和8年3月末
正会員	108	0	0	108

(2) 預り基金 (単位:千円)

区 分	預り基金
北海道	1,345,000
その他自治体(9市)	46,000
農業協同組合(85JA)	3,000,095
農協連合会(4団体)	1,293,900
その他農業団体(9団体)	2,048,100
計	7,733,095

(3) 役員

区分	前期末	当期就任	当期退任	令和8年 3月末	定款に決める 役員の定数
理事	14	6	5	15	13名以上15名以内
監事	1	3	1	3	3名以内
合計	15	9	6	18	

役員名簿

役職名	氏 名	所属団体・役職名
理事長	樽 井 功	北海道農業協同組合中央会 代表理事会長
副理事長	橋 本 弘 幸	ホクレン農業協同組合連合会 代表理事副会長
専務理事	五 藤 一 彦	学識経験者
常務理事	小 林 信 樹	学識経験者
理 事	植 村 一 郎	北海道農政部生産振興局 農産振興課長
理 事	松 尾 元	公益財団法人日本豆類協会 常務理事
理 事	金 子 辰四郎	ようてい農業協同組合 代表理事組合長
理 事	高 井 一 英	とうや湖農業協同組合 代表理事組合長
理 事	今 村 隆 徳	道央農業協同組合 代表理事組合長
理 事	畑 山 義 裕	東旭川農業協同組合 代表理事組合長
理 事	佐 野 成 昭	津別町農業協同組合 代表理事組合長
理 事	前 川 厚 司	幕別町農業協同組合 代表理事組合長
理 事	梶 原 雅 仁	豆の国十勝協同組合 理事長
理 事	太 田 孝 夫	北のでんぷんを考える会 会長
理 事	荒 井 義 久	公益社団法人北海道酪農検定協会 専務理事
監 事	岩 田 清 正	きたそらち農業協同組合 代表理事組合長
監 事	飯 島 浩	中標津町農業協同組合 代表理事組合長
監 事	末 永 仁 宏	末永公認会計士事務所 所長

(4) 会計監査人

氏 名	所 属
板 倉 暢 宏	桶谷・折原・板倉公認会計士共同事務所

(5) 業務評価委員会

業務評価委員（豆類）名簿

氏 名	所 属・職 名
高 野 浩 文	公益財団法人日本豆類協会 事務局長
矢 花 修	北海道農政部生産振興局農産振興課課長補佐
安 岡 眞 二	地方独立行政法人北海道立総合研究機構 農業研究本部十勝農業試験場 研究部長
沖 崎 慎	北海道農業協同組合中央会 農政対策部米穀農産課長
本 郷 徹	ホクレン農業協同組合連合会 農産事業本部農産部長
山 田 大	女満別町農業協同組合 参事
市 村 誠	本別町農業協同組合 農産部長
西 谷 洋 人	芽室町農業協同組合 農産部長

業務評価委員（馬鈴しょ）名簿

氏 名	所 属・職 名
今 井 慎	北海道農政部生産振興局農産振興課 畑作グループ主幹
沖 崎 慎	北海道農業協同組合中央会 農政対策部米穀農産課長
本 郷 徹	ホクレン農業協同組合連合会 農産事業本部農産部長
植 田 裕	ホクレン農業協同組合連合会 種苗園芸部種苗課技師
平 崎 陽 一	浦幌町農業協同組合 営農販売部長
古 川 慎 也	小清水町農業協同組合 販売部長

(6) 職員

区分	前期末	当期増加	当期減少	令和8年3月末
一般職員	8	1	2	7

4. 管理及び運営に関する事項

(1) 総会

① 令和7年度通常総会

- ア 開催日 令和7年6月13日(金)
イ 開催場所 ANA クラウンプラザホテル札幌 23 階「白樺」
ウ 会員数及び出席者数
 正会員数 108
 総会出席者数 98
 (本人出席 31、委任状 8、議決権行使書 59)

エ 議決事項

- 第1号議案 令和6年度事業報告書並びに計算書類について
第2号議案 定款の変更について
第3号議案 役員の報酬及び費用に関する規程の改正について
第4号議案 任期満了に伴う役員の選任について
第5号議案 令和7年度役員報酬について

② 令和7年度臨時総会

- ア 開催日 令和7年11月19日(水)
イ 開催場所 北海道農産協会大会議室
ウ 会員数及び出席者数
 正会員数 108
 総会出席者数 100
 (委任状 2、議決権行使書 98)

エ 議決事項

- 第1号議案 定款の変更(案)について

(2) 理事会

第1回理事会 令和7年5月23日(金)

ア 議案

- 第1号議案 令和6年度事業報告書並びに計算書類(案)について
第2号議案 任期満了に伴う役員の選任について
第3号議案 令和7年度役員報酬(案)について
第4号議案 令和7年度通常総会の開催について
第5号議案 令和7年度会計監査人の報酬について
第6号議案 準備金の取崩しについて
第7号議案 果樹関係事業に係る業務方法書の一部改正について

イ 報告事項

- 報告事項1号 理事長及び専務理事の職務の執行状況について
報告事項2号 令和6年度馬鈴しょ安定供給緊急対策事業の実施について

第2回理事会 令和7年6月13日（金）

ア 議 案

第1号議案 理事長、副理事長、専務理事、常務理事の選定について

第2号議案 資産運用執行責任者の任命について

第3回理事会 令和7年10月20日（月）

ア 議 案

第1号議案 令和7年産事業対象馬鈴しょでん粉調整販売計画について

第2号議案 豆類価格安定対策事業の取り進めについて（案）

第3号議案 業務方法書等（豆類事業、馬鈴しょ事業）の改正（案）について

第4号議案 定款の変更（案）について

第5号議案 新規事業（小麦）に係る事業要綱・業務方法書の設定について（案）

第6号議案 令和7年度臨時総会の開催について

第7号議案 役員賠償責任保険契約の更新について

イ 報告事項

報告事項1号 令和7年度上半期事業報告並びに収支報告について

報告事項2号 理事長、専務及び常務理事の職務の執行状況について

報告事項3号 資産の運用状況と今後の取り進めについて

第4回理事会 令和8年3月18日（水）

ア 議 案

第1号議案 令和8年度事業計画及び収支予算について

第2号議案 赤系金時安定供給緊急対策事業の実施について

第3号議案 令和7年度馬鈴しょ安定供給緊急対策事業（追加）の実施について

第4号議案 小麦生産振興事業の寄託金等に係る契約について

第5号議案 小麦生産振興事業に係る規程類の変更等について

第6号議案 令和8年度小麦研究開発支援事業における支援対象について

イ 報告事項

報告事項1号 資産の運用状況と今後の取り進めについて

報告事項2号 令和8年度事業に係る公募結果について

報告事項3号 預り基金（馬鈴しょ）の一部返還について

（3）監事監査

第1回監事監査 令和7年5月23日（金）

議 題 令和6年度公益社団法人北海道農産基金協会の決算等

について

第2回監事監査 令和7年10月20日（月）
議 題 令和7年度上半期事業報告並びに収支報告について

（4）会計監査

第1回会計監査人監査 令和7年5月15日（木）
議 題 前事業年度会計監査について
第2回会計監査人監査 令和7年10月10日（金）
議 題 上半期財務諸表検証について

（5）業務評価委員会

第1回業務評価委員会（豆類） 令和7年5月20日（火）
報告事項 1）令和6年度赤系金時安定供給緊急対策事業実施報告について
審議事項 1）令和6年度事業報告（案）について

第1回業務評価委員会（馬鈴しょ） 令和7年5月20日（火）
報告事項 1）令和6年度生産流通振興事業結果概要について
2）令和6年度馬鈴しょ安定供給緊急対策事業結果概要について
3）令和6年度でん粉原料用馬鈴しょ栽培共励会結果概要について
審議事項 1）令和6年度事業報告書（案）について

第2回業務評価委員会（豆類） 令和7年10月8日（水）
報告事項 1）令和7年度事業報告（上半期）について
2）令和7年産道産豆類の需給見込について
3）令和7年度赤系金時安定供給緊急対策事業の取組状況等について
審議事項 1）豆類価格安定対策事業のとり進めについて
2）業務方法書等の一部改正について

第2回業務評価委員会（馬鈴しょ） 令和7年10月10日（金）
報告事項 1）令和7年度事業報告書（上期）
審議事項 1）令和7年産事業対象馬鈴しょでん粉調整販売計画（案）について
2）でん粉原料用馬鈴しょ栽培共励会及び業務方法書（馬鈴しょ事業）の改定について
そ の 他 1）第32回馬鈴しょ及びでん粉講習会の開催について

第3回業務評価委員会（豆類） 令和8年3月10日（火）
報告事項 1）令和7年産道産豆類の需給見込について
2）令和8年度事業に係る公募結果について

- 審議事項 1) 令和8年度事業計画(案)について
2) 赤系金時安定供給緊急対策事業の実施について
- 第3回業務評価委員会(馬鈴しょ) 令和8年3月10日(火)
- 報告事項 1) 令和8年度事業に係る公募結果について
2) 第32回馬鈴しょ及びでん粉講習会結果について
- 審議事項 1) 令和7年度馬鈴しょ安定供給緊急対策事業(追加)について
2) 令和8年度事業計画(案)について
- その他 1) 馬鈴しょでん粉をめぐる一般情勢等について